

今、何の病気が流行しているか！

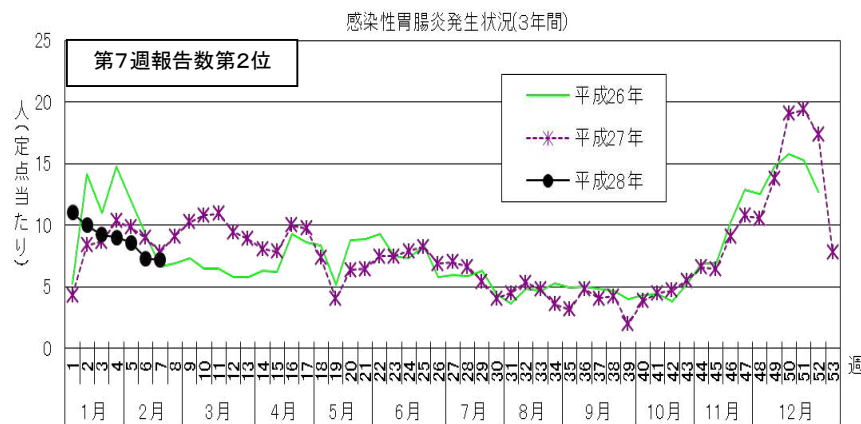
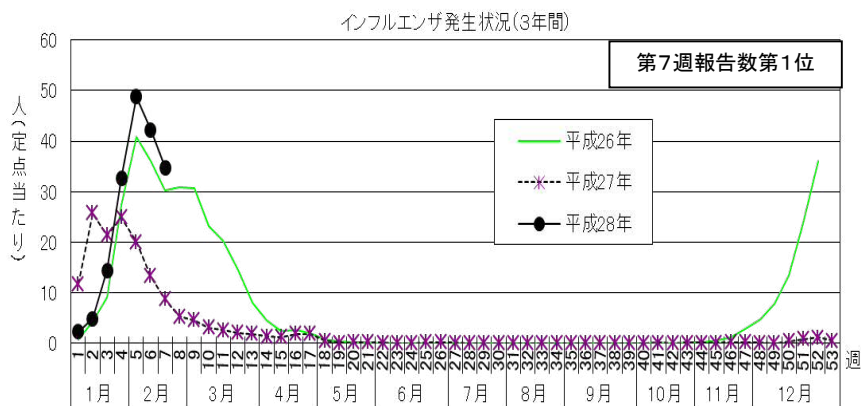
【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY

平成28年2月15日（月）～平成28年2月21日（日）〔第7週〕の感染症発生状況

第7週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 インフルエンザの定点当たり患者報告数は34.78人と前週（42.30人）から減少しましたが、例年よりやや高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は7.15人と前週（7.27人）からほぼ横ばいで、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.33人と前週（1.94人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



例年より多い報告数～流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)～

流行性耳下腺炎の報告数が、昨年から全国的に増加しています。川崎市でも、昨年10月下旬以降報告数が増加しており、過去5年間と比較すると最多の報告数が続いています。現在、区別では多摩区からの報告数が多く、年齢別では4～8歳など就学前後の小児の割合が多くなっています。

流行性耳下腺炎の特徴は？

感染経路：唾液などの接触・飛沫感染
潜伏期間：2～3週間（平均18日前後）
症状

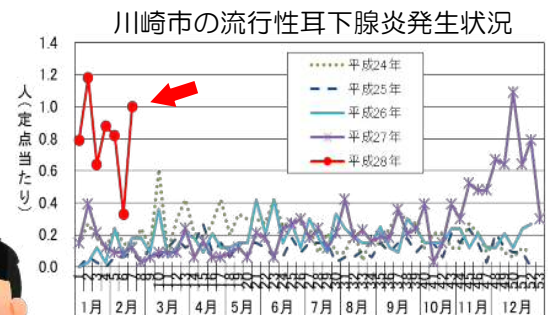
- ・両側又は片側のほお（耳下腺）の腫れや痛み、発熱など
- ・無症状のままウイルスを排泄する患者が多い

合併症

- ・無菌性髄膜炎、脳炎・難聴のような重症合併症、精巣炎・卵巣炎など多彩
- ・妊婦が感染すると自然流産の可能性あり

予防方法

ワクチン接種が唯一効果的な予防方法



川崎市の流行性耳下腺炎分布マップ（第7週）

